

復活の力を考えて

イズコ神父

御存知のように、一年前（11月24日）に教皇フランシスコは『福音の喜び』と言う勸告を発表しました。スペイン語で書かれた長い勸告であり、日本語に訳されてやっと発表されたのは2014年6月20日でした。確かに長いメッセージですが、とても美しい内容と文章であり、私たちの心を照らし喜ばせ、励まし、希望を新たにするためには素晴らしい手紙だと思います。

この教皇フランシスコの勸告がたくさんテーマに触れていますので、もしかしたら『死者の日』に繋がっている『キリストの復活』のメッセージが載っているかとうかがいながらその頁を読んできました。毎年11月の2日に、私たちの親戚、友達に対して希望と慰めをもたらすためメッセージを探しました・・・そして、見つけたと思います。見つけたのは当たり前でしょう。なぜなら『福音の喜び』を表すためにはキリストの復活を中心としなければなりません。

どのような言葉でパパ様がその信仰の喜びを表していますか？聞きましょう。「希望がなければ、人生は無意味になり、人はそれに絶えることは出来ません。どうせ何も変わりはない、そう考えてしまうときには思い起こして下さい。イエスキリストは、罪と死に打ち勝ち、力に満ちておられるのです・・・」(275)。確信をもって最初の弟子達は出かけて行って、福音を述べ伝え、「主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることをお示しになった。」(マルコ 16・20)

「現代にも同じ事が起こります。私たちはそれを見だし、それを生きるよう招かれています。キリストの復活と栄光は私たちの希望の源です・・・イエスの復活は過去の出来事ではありません。それは世界を貫いた命の力を帯びています。全てが死んだかのように思われるところにはどこにでも、復活は再び芽生えるのです。この力を止めることは出来ません。屢々神は居ないかのように思われることが誰にでもあります。不正も悪意も無関心も残酷な行為も減ることはなく、私たちはそれをいつも目にしています。しかし、暗闇のただ中であっても、新しい何かが必ず芽生え始め、ついには実りをもたらすことも又確かなことです。善は必ず回復し、広がろうとしています。これこそ復活の力です。」(275・277)。

「信仰とは主を信じることです。主が私たちを愛しておられること、主が生きておられること、主が世に神秘的に介入されること・・・、歴史の中で勝利し、私たちと共に歩むことを信じることです。キリストの復活は、あらゆる場所に、新しい世界を芽生えさせます。主の復活はすでにこの歴史の隠れた筋書きを貫いているからです。イエスの復活は無駄ではないからです・・・。」(278)。

イエスキリストの復活の光によって、私たちの毎日の生活は照らされます。その心を強めるために、教皇フランシスコはこのような励ましの言葉を加えます。「愛を以てなされた働きは決して無にはなりませんし、他者のための真の心配り、神に対する愛の行為、

惜しみない努力，痛みを伴う忍耐，どれもが決して無にはなりません・・・。」(279)。

11月2日は私たちと一緒に巡礼の道を歩いた方を愛を以て思い出しています。その日の御ミサの一つの祈りの言葉で，全世界の教会の信者と心を合わせて，祈りましょう。

「キリストの内に私たちの復活の希望は輝き，死を悲しむ者も，とこしえの命の約束によって慰められます。信じる者にとって，死は滅びではなく，新たな命の門であり，地上の生活を終わった後も，天に永遠の住みかが備えられています・・・。」主の前に色々な複雑な気持ちがあるかもしれませんが，父である神の愛を思い，イエス様の約束を思い出して，安らぎを見いだします。「私の父の家には住むところがたくさんある・・・あなた方のために場所を用意しに行く・・・心を騒がせるな」(ヨハネ14)。